



家庭倫理の会は「よくする活動」を推進しています
自分を、 家庭を、 地域を、 日本を、 地球をよくする 活動を推進しています

役職者研修第1講

講師:徳江秀雄 普及開発部部長 2月10日(火) 18:15~19:25 スマイル中野

テーマ:「たった1枚の辞令に命を燃やせ。そこに、向上・躍進・幸福がある 参加者14名

辞令拝受の心得

たった一枚の辞令に命を燃やし、

- 1、私たち役職者は、「家庭をよくする」ために、倫理の学習と実践の進化に誠を尽くします。
- 1、私たち役職者は、「地域をよくする」ために、会長と心をひとつにし、倫理でつながる仲間の輪を力強く広げます。
- 1、私たち役職者は、「日本をよくする」ために、地球倫理の実践に磨きをかけて環境の保全と美化に努めます。

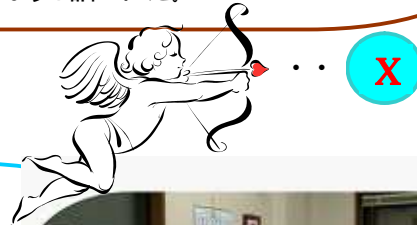


役職を拝して受ける(拝受)とは目に見えない向こう側の世界(幽界)・大きいエネルギーと一致することである、大宇宙の大信念(生成発展・常に良くなろうとしている)と一致することであり祈る時すでに成就したと思えとはその事である。(菜第15条)を引用し、笑いを誘いながら巧みな話術で魅了した。某大手の営業社員トップ50人と下位集団50人との違いは“その気”があるかどうかであり、その気があればどんな困難な事態に於いても工夫がありテクニックも技術も生まれてくると普及手口にも話が及び、最後に、役職者は基本姿勢として、誇りと謙虚さを持ちましようと言われた。

合同おはよう倫理塾

2月11日(水・祝)5:30~6:30 天神会館 参加者22名

講師:徳江秀雄 普及開発部部長



某高校の保護者会に講師として出席した時の話

高校の3年間“取らない、買わない、乗らない”というオートバイに関する校則があったが何人かの学生が規則を破って免許を取り事故を起してしまった。倫理研究所の貴方なら校則に関してどのように思うか、是か非かとモニターペアレントとおぼしき女性たちに詰問された。皆さんならどのように答えますか？私は校則そのものに問題があるのではなく、保護者側の基本方針と学校側の基本方針が違っていればその狭間に入って被害を受けるのは子どもたちであり、その様な対立の中ですくすくと成長するはずはない、子どもというものは、どちらか自分の都合の良い方を取るものだと答えたと言う。又「新世」を私の愛読書ですが、どうですかと薦められたのがきっかけで倫理の勉強に入り幸せを掴み、今度は皆さんにお知らせする番として活躍している人の話もあった。終始迫力のある声で、今後も倫理の体験・実践を大切にしていましようと言われた。一部抜粋



純粹倫理学習会・第2講

2月15日(日)9:30~11:00 中野サンプラザ研修室6 参加者34名

講師:川口裕司生涯局専任講師

テーマ:「地球倫理の推進」



仕事も倫理の学びも2代目ですと自己紹介から始まった。日本は生活面ではエコ先進国ではない、スウェーデン、ソウルのエコ事情のビデオを鑑賞後、岩手県葛巻町を紹介、この町は風が強い上糞尿の匂いがするというハンデを逆に活かして風車を15基設置、これにより10億円の電力を発生させ、糞尿をメタン発酵槽に運びガスタービン発電により売電10億円、それらの収益で太陽光発電設置、又施設見学に観光客が4千から40万人と増え、客目当ての地場産業としておばちゃん達の森の蕎麦屋が年中無休で営業する等、町が生まれ変わった、まさに苦難福門であると。又人間の身体は鍛えないと衰える、同じ様に心も困った時ピンチを乗り越えていくタフでしなやかな心に鍛えていく必要がある、大阪淀川のある幼稚園の園長の信念で入園以後徐々に距離を伸ばし卒園時には180人のこども全員が42、195キロのフルマラソン並みの距離を全員完走。ひとつの事をやり続ける子どもは0.001%だそうで、英才教育に熱心な親御さんは多いが、投げ出さない、あきらめないでやり続ける子どもを育てる必要性を話された、ゴミの分別から始まり話は多岐に亘った。

第2回体験発表会

1月18日(日)5:30~6:15 合同おはよう倫理塾・天神会館
報告者は原千美さん、清水新司さん 解説は飯田孝雄副参事

原千美さん：「思いがけない息子の帰省」、兵庫県の警察に勤務している息子から、年末年始に掛けて休暇がもらえたから家に帰るとい嬉しい電話が暮れに掛かってきた、この何年間、仕事柄正月に実家に帰ってくる事がなかっただけに嬉しさ百倍であった、長女も帰ってきて“今年は何も用意しないよと言ったのに大ご馳走だね”と言はれたが、楽しいお正月を迎える事が出来た。昨年2月大失敗をして息子には大迷惑を掛けて、すまないと思っていたのに小遣いまで手渡された。二人とも今では互いに褒めあう姉弟となり、親としてこんな嬉しい事はない、それに引き換え、自分は妻として主人の事を褒めた事があつたらうかと反省した、子どもたちの帰省に当たり沢山の事を教えられた。これからも夫婦仲良く「おはよう倫理塾」に通い続けますと笑顔で発表した。



解説：「思いがけない」と言うが、倫理では実践をしていた証拠である。29年間ほとんど毎朝20分ほど歩いて通い続けた事、歩くと言う事はストレス解消になり、早朝ご夫婦で歩くのだから仲良くなれない筈がない。平凡で家庭内に揉め事がなく健康で、思いやりのある家庭が何といても一番の“幸せ”であると解説した。

清水新司推進長：普段から夫婦愛和を心掛けているが、結婚37年目を迎えるにあたり夫婦で念願の涸沢カールトレッキングを計画した、途中若い夫婦との楽しい出会いがあったりして、快調に歩を進めていたが小屋まで後2時間半ほどのところで登山靴の底が剥がれ、このままではたどり着けないと思案していた時、後ろから来た5人連れの中年のパーティの中の1人の女性がリュックから粘着テープを取り出し、応急処置としてぐるぐると巻き、これで暫くは大丈夫でしょうと言ってサッと行ってしまった、きちんと礼を言う暇もなかったが、まさに自分を助けるがために現れた女神のごとくであったように思う。紅葉の秋を堪能したと同時に優しさに触れたトレッキングでしたと発表。



解説：夫婦で両手を付いた朝のあいさつを15年間続けているそうだが、なかなか出来ることではない。努力にも5つのツボがあると。1、目的(正しい方向と明確な方向) 2、心の姿勢(恨んだり、憎んだりしない) 3、一貫(愚直なほどに) 4、順序 5、時期

倫研新報2月号 明鏡より (前略) 昨年の米国発、金融危機の大波に国内も景気低迷に陥った。庶民の懐具合もなかなか温まらない状態だが、弱音を吐き手をこまねいている時ではない。今こそ日々、積み重ねた実践力で、攻めの姿勢を崩さずに、勝機を掴み取る気概が大事であろう。われわれが学ぶ純粋倫理の特徴の一つに「ピンチの中にチャンスあり」というのではないか。しかしそれをチャンスにしていくには、きれい事では出来ない。まず、先手、先手の気構えで小事をおろそかにせず、きちんとやりぬくことを始めとし、激変する環境に引きずられる事なく、しっかりと腰を据え向かうべき事柄を見据えて「一步も後には引かぬぞ!」「負けてたまるか!」と自らを奮い立たせる事だ。もう一つは「自然は真理の百科事典」という。生きとし生けるものに共通している事は、環境に見事に適応してきたかどうかという、生き残っていく条件を満たしている点にある。人間生活も、例外ではないのだ。井上茂勝研究員

いよいよ開催！家庭倫理講演会

4月29日(水・祝日)10:00~11:45

なかの芸能小劇場 講演：中西康成研究員
テーマ：家庭をよくする



早めに予定を入れておいて下さいね

富士研セミナー 5月17日(日)~18日(月) 12名



家庭倫理の会中野区

発行責任者 栗山敏昭

編集責任者 安藤忠子

家庭倫理の会中野区ホームページ <http://nakano-rinri.jp>